

「中山間地域の買い物に関する集落調査（速報版）」 の概要について

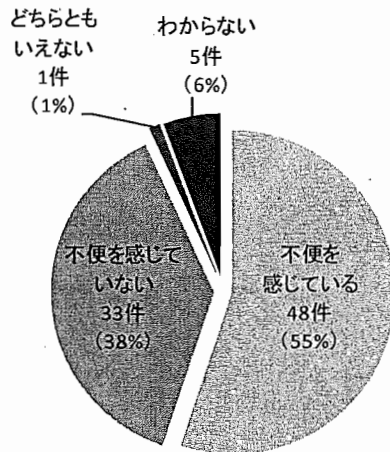
「新しい公共の場づくりモデル事業」を活用して、NPO法人と県及び関係市町村とで実施している「買い物助け合いプロジェクト」で、本年9月から11月にかけて中山間地域の集落の代表者と住民を対象に実施した、日用品の購入先など買い物の状況等に係る聞き取り調査結果の速報は、次のとおりである。

1 集落調査の結果

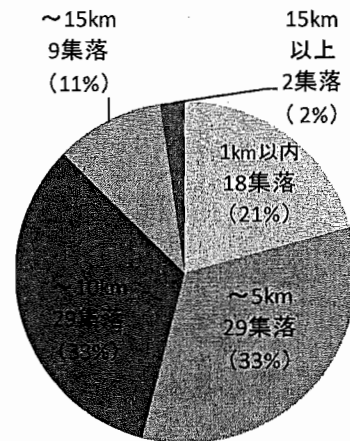
(1) 代表者調査

16の市町村から地域の状況を勘案し推薦のあった87集落の代表者に対する聞き取り調査

① 日常の買い物の利便性



② 利用する最も近い商店までの距離



【不便を感じている主な理由】

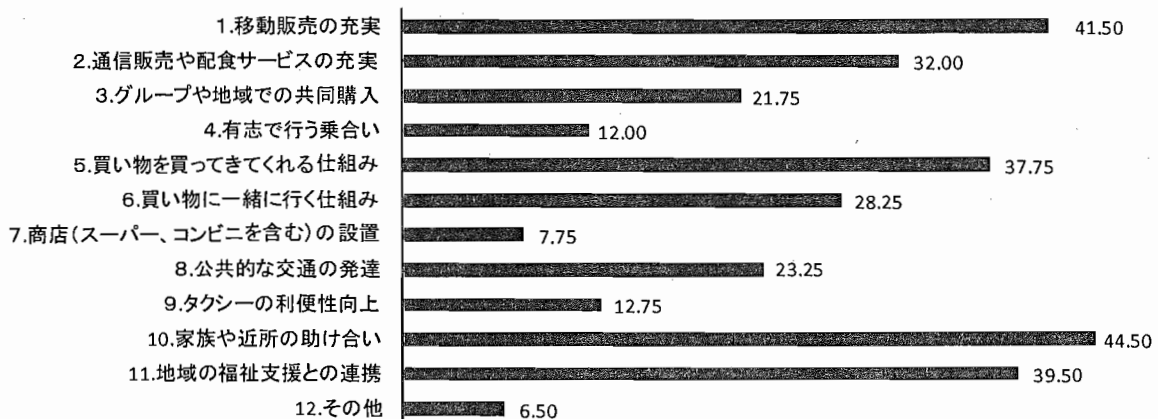
- ・近所に店がない（18件）
- ・車を運転しない人は不便だ（14件）
- ・バス停に出るのが大変、公共交通機関がない（10件）

【不便を感じていない理由】

- ・自家用車を利用できる（8件）
- ・宅配や移動販売等で買える（10件）

住民が買い物に利用する商店までの平均距離は13.6km、そのうち最も近い商店までの平均距離は5.8kmとなっている。

③ 将来を見据えて買い物ができるために必要な仕組み



(注) 上記の選択肢から複数回答してもらい、1位の項目は1.5、2位の項目は1.25に換算して集計

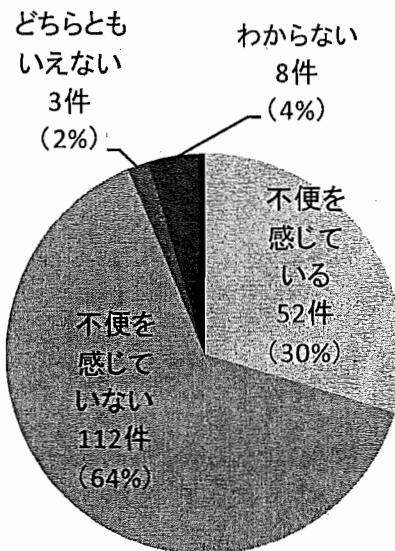
地域で支え合うのは当たり前だなどの理由から「家族や近所の助け合い」が一番多く、次に、近くで買い物ができる、商品を選べる等の理由から「移動販売の充実」、続いて、地域の人が多くが高齢者となるので「地域の福祉支援との連携」となっている。

(2) 住民調査

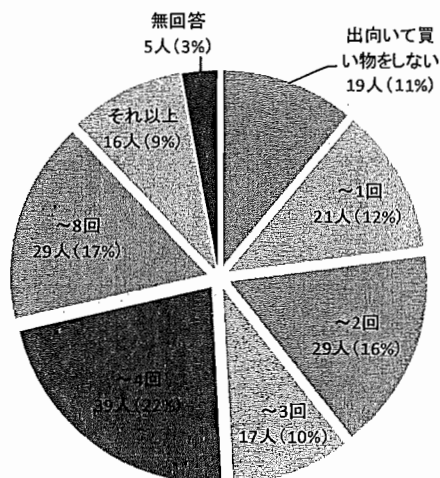
集落の代表者から推薦してもらった2～3人、計175人に対する聞き取り調査

① 日常の買い物の利便性

「不便を感じている」との回答が代表者の回答（55%）よりも低くなっているが、これは、「月に何度か子どもが買って来てくれる、買い物に連れて行ってくれる」、「近所や友人の協力がある」、「買い置きができる」、「慣れた」等の理由で「不便を感じていない」など、現在の生活に慣れていることが主な要因と思われる。



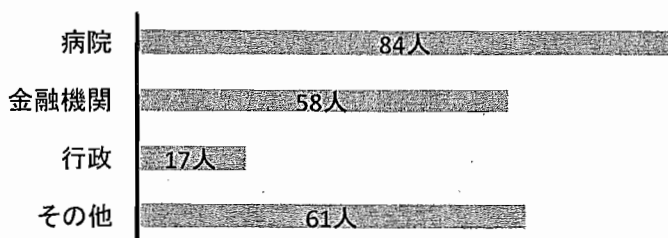
② 商店に出向いて買い物をする回数



商店に自ら出向いて買い物をする回数は、平均で月3.5回。月4回を超えて買い物に出向く人の割合は26%となっている。

また、商店に自ら出向いての買い物はしていない者19人（11%）については、子どもや近所の人に買い物に連れて行ってもらったり、買って来てもらったりしているほか、移動販売や宅配サービスを利用して買い物を行っている。

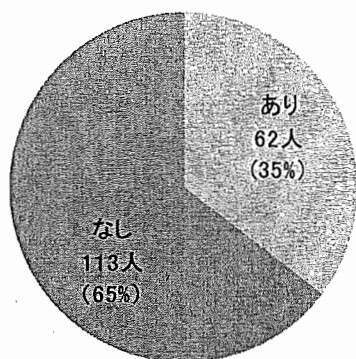
③ 買い物に行ったついでに立ち寄る場所



半数以上の人が病院に行っており、次いで金融機関、行政、その他という結果になっている。その他に立ち寄る場所としては、ご近所・友人宅・実家・飲食店・美容院・農作物の出荷などとなっている。

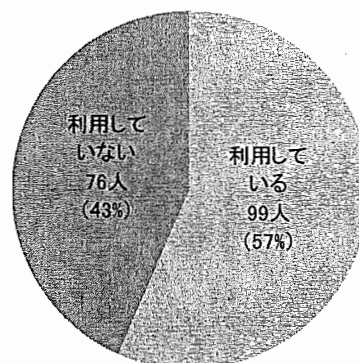
④日用品の購入方法

ア 移動販売の利用状況



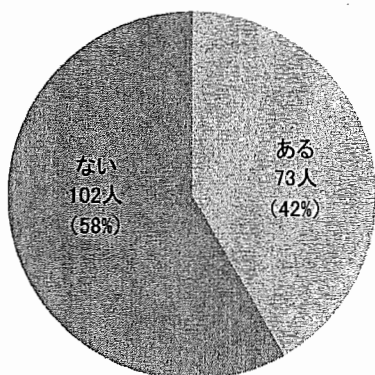
移動販売を利用していない113人中、4人に1人が移動販売の利用を希望している。

イ 宅配サービスの利用状況

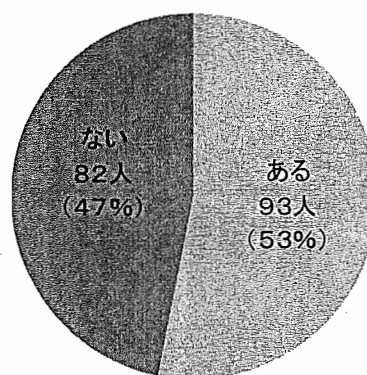


生協や農協、スーパー等の宅配サービスの利用が見られる。

ウ 日用品を買ってきてもらう状況



エ 買い物に連れて行ってもらう状況



買ってきてもらう、買い物に連れて行ってもらうともに、その相手は、別居を含めて家族が最も多く、次に近所・友人となっている。

3 今後の取組

「買い物助け合いプロジェクト」では、現在、中山間地域の高齢者等の生活を支えている移動販売や宅配、配食等を行っている事業者に対して、事業を行うに当たっての課題等を調査しており、これらの調査結果を踏まえて、買い物をしやすい環境づくりに向けた提案やモデル事業を実施し、自治体や関係機関、企業等の積極的な取組を促すこととしている。

「中山間地域の買い物に関する集落調査（速報版）」について

1 調査の目的

中山間地域に生活する住民の日常の買い物について、単に不便を感じているどうかだけでなく、日常生活品の購入先や購入先までの移動手段、時間等を調査し地域の実態を把握する。

2 実施主体

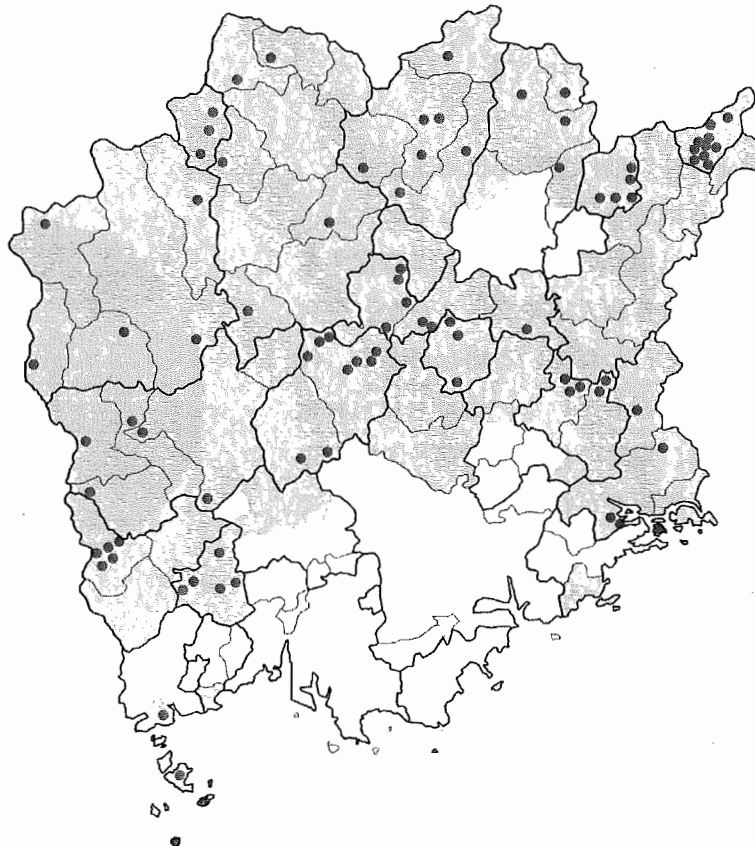
買い物助け合いプロジェクト（集落支援ヒビサト、岡山県中山間地域県・市町村連携協議会）

3 調査手法

全域が中山間地域の市町村及び岡山県中山間地域県・市町村連携協議会ワーキング会議に参加している16の市町村からそれぞれ推薦のあった概ね5集落の代表者87人と集落の代表者から推薦のあった住民175人（集落あたり2～3人）に対して調査員を派遣しヒアリング調査を行った。

【市町村別の調査集落数】

津山市（4）、笠岡市（4）、井原市（5）、高梁市（5）、新見市（5）、備前市（5）
真庭市（5）、和気町（5）、矢掛町（5）、新庄村（3）、鏡野町（7） 奈義町（5）、
西粟倉村（10）、久米南町（3）、美咲町（7）、吉備中央町（9）



4 集落の代表者に対する調査

(1) 買い物関係

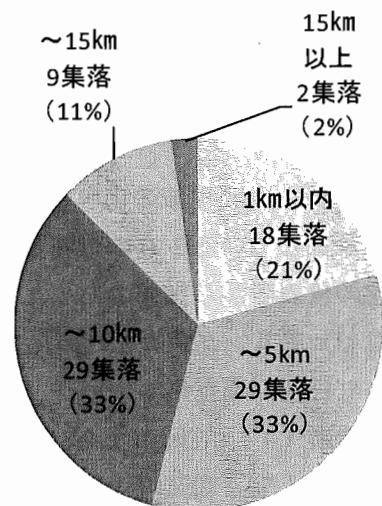
集落の代表者に聞いた地域の買い物を取り巻く状況は次のとおりであった。

【最も近い商店への距離の平均】

集落代表者が回答した「集落住民が利用する商店」までの距離の平均は13.6kmだったが、そのうち、最も近い商店までの距離の平均は5.8kmとなっている。

【最も近い商店への距離分布】

次に、その「住民が利用する最も近い商店」までの距離を整理したところ右のような分布となった。1km以内に商店がある集落は18集落で21%、1km～5km以内に商店がある集落は29集落で33%、5km～10km以内は29集落で33%、最も近い商店まで16km以上離れている集落は2集落という結果になった。

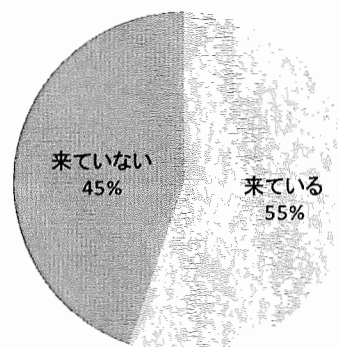


住民が利用する最も近い商店への距離

【集落での移動販売について】

移動販売は、以前は集落単位等まとまった戸数がある地域を対象に行われていたが、戸数が減り、日用品の購入方法も多様化する中で、現在では各個人宅や2～3戸など少数の戸数を対象に行われている場合が多く、代表者が状況を把握していない場合も見られた。右のデータは、集落の代表者調査と住民調査の結果から移動販売が行われていると確認できた集落について整理したものである。

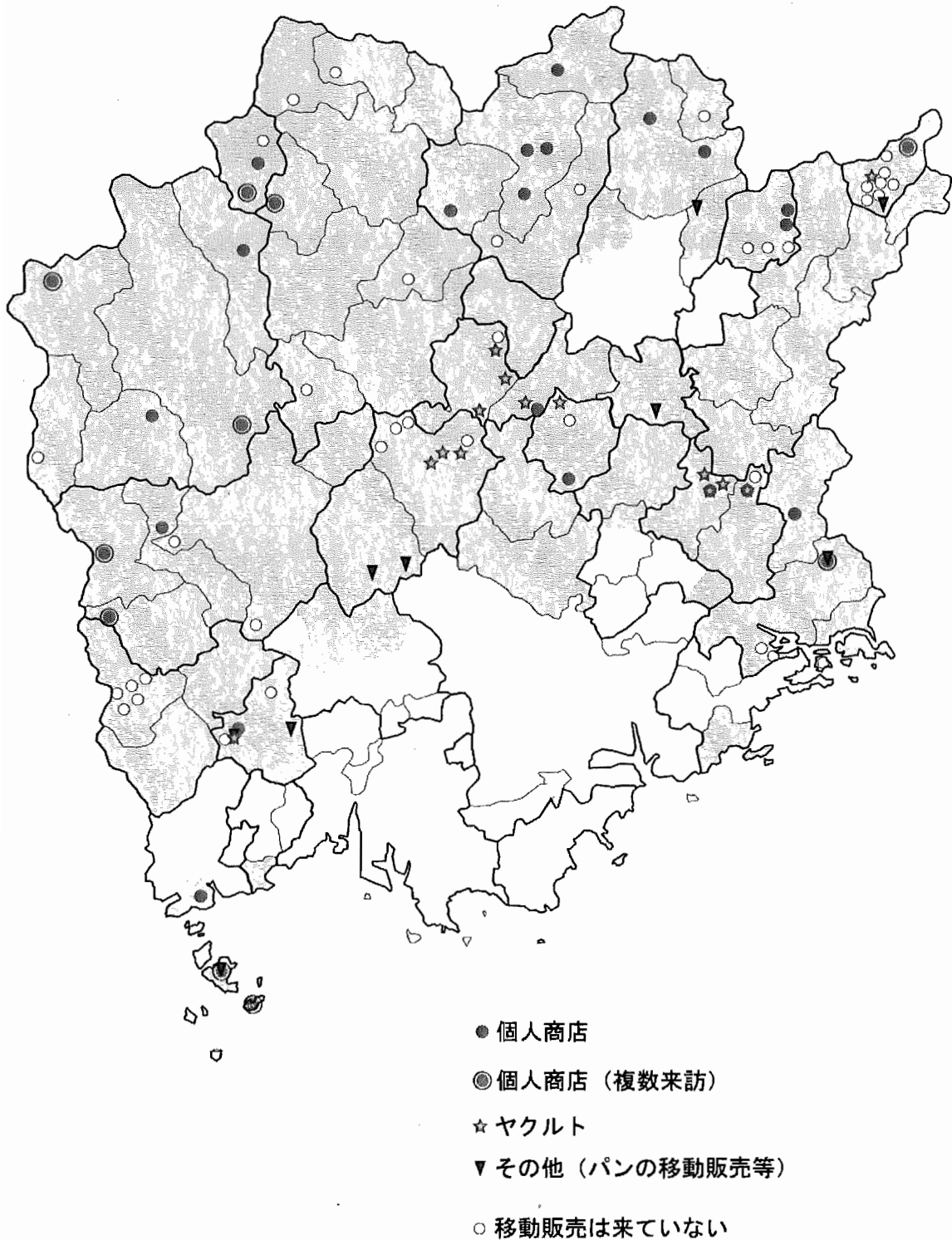
調査した集落の約55%の48集落で移動販売が行われていた。



集落での移動販売

次に、行われている移動販売を地域別・事業者別に整理したところ、県北部に多く見られ、事業者は個人商店が最も多かった。

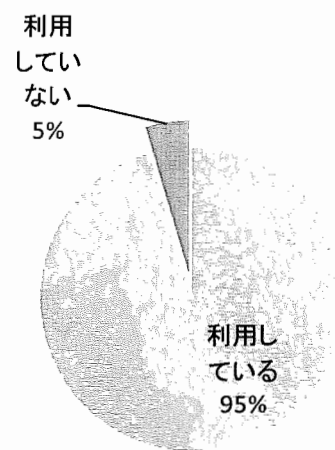
また、ヤクルトの訪問販売員が販売時に惣菜や豆腐等を販売している状況があったほか、県の南西部から北東部にかけて、パンの移動販売等が行われている状況（数年前までは来ていたが最近来なくなったという意見があった）が見られた。



【集落での宅配について】

集落の代表者調査及び住民調査によると、95%の集落で宅配による買い物をしている状況があった。そのうち、代表者から生活協同組合の宅配を利用しているとの回答があったのは67集落で、28集落からJAの宅配サービスを利用しているとの回答があった。JAの宅配サービスは、灯油、肥料などの農業資材から野菜等の食材、日用品、配食など、幅広いサービスを支店ごとに展開している状況があった。

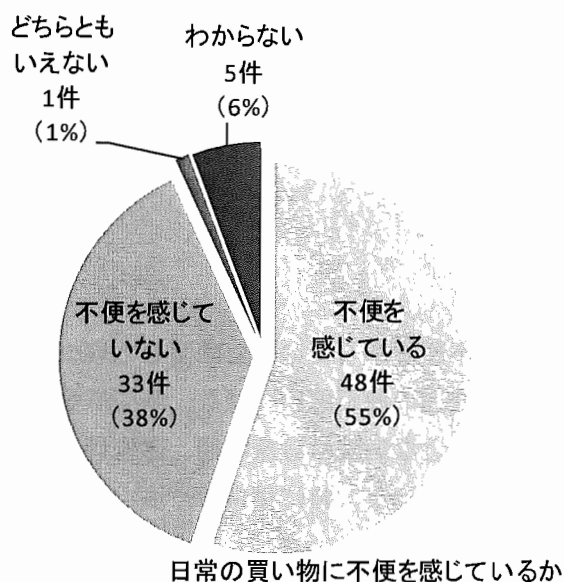
その他、社会福祉協議会等による配食や食材の宅配、個人商店による宅配、スーパー等によるカタログ宅配、ネット販売など様々なサービスを利用している状況が見られた。



宅配の利用状況

【買い物の利便性に関する代表者の認識】

「集落の方々は日常の買い物に不便を感じていますか」という問いに対して、「不便を感じていると思う」との回答が48件あり、「不便を感じていないと思う」との回答は33件（「どちらともいえない」1件、「わからない」5件）で、不便を感じている集落の割合は約55%となっている。



（不便を感じていると回答した理由）

- ・ 近所に店がない、近所の店がなくなった……18件
- ・ 車のない人は不便だ……14件
- ・ バス停まで出るのが大変、公共交通機関がない……10件
- ・ 地域にタクシーがない……1件

このほか、スーパー等が遠い、近所の店の鮮度や品揃えが悪いことのほか、宅配やタクシー、運転免許のある人に頼むという現在の買い物の方法に対する不便や不満が21件あった。

また、不便の解消に向けて、地域の助け合いが必要との意見が2件あった。

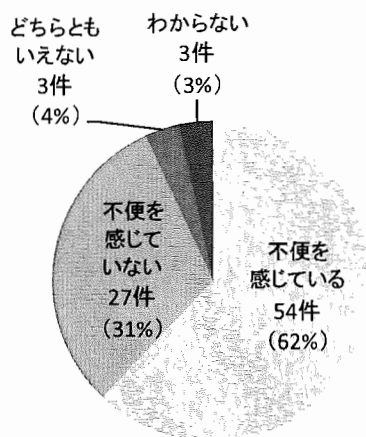
（不便を感じていないと回答した理由）

- ・ 車を運転している人がほとんど、車があるので便利……8件
（一方で「車を持たない人は不便だろう」3件、「今は良いが車の運転ができない人が今後増えると不安」3件との意見があった。）
- ・ スーパー等日用品の購入先が近い……7件
- ・ 生協等の宅配がある……4件
- ・ 個別の商店やヤクルトなどの移動販売がある……4件
- ・ 運転免許がない人でもそれなりの手段で買い物を行っている……2件

(2) 通院関係

【通院の利便性に関する代表者の認識】

「集落の方々は通院に不便を感じていますか」という問いに対して、「不便を感じている」との回答が54件あり、「不便を感じていない」との回答は27件（「どちらともいえない」3件、「わからない」3件）で、6割以上の集落で通院に対して不便を感じていると回答している。



(不便を感じていると回答した理由)

- ・ 交通の便が悪い（便数、時間帯等）……35件
- ・ 身近な病院は診療時間、診療科目が限られている……12件

このほか、特に積雪時や途中で階段があることから通院が不便という意見もあった。

(不便を感じていないと回答した理由)

- ・ 病院が近い……6件
- ・ 公共交通機関がある……6件
- ・ 車利用の人がほとんどなので問題ない……4件

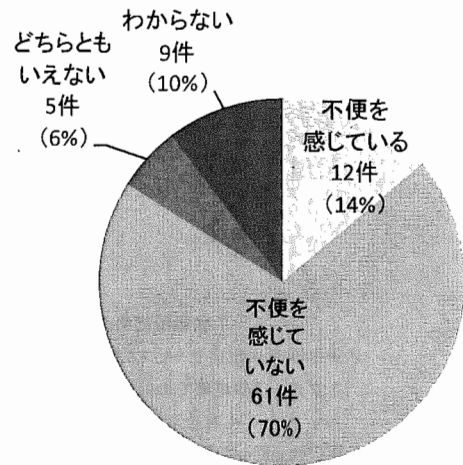
このほか、慣れていたので何とかなっている（3件）、行けなくても往診がある（1件）のほか、医療費が安く気軽に医者にかかれるので大きな病気にかかることが比較的少なく遠くの病院に行く必要性があまりないなどの意見があった。

通院に不便を感じるか

(3) デイサービス関係

【デイサービスの利便性に関する代表者の認識】

「集落の方々はデイサービス施設の利用に不便を感じていますか」という問いに対して「不便を感じている」との回答が12件、「不便を感じていない」との回答が61件（「どちらともいえない」5件、「わからない」9件）で、約7割の集落で不便を感じないと回答している。



(不便を感じていると回答した理由)

- ・ 行きたい日に行けない……6件
- ・ 気遣いをしてしまう、人間関係のストレス……2件
- ・ 費用がかさむ……1件
- ・ 交通の便が悪い……1件

(不便を感じていないと回答した理由)

- ・ 送迎がある……38件

このほか、デイサービスが買い物にも連れて行ってもらえるという意見もあった。

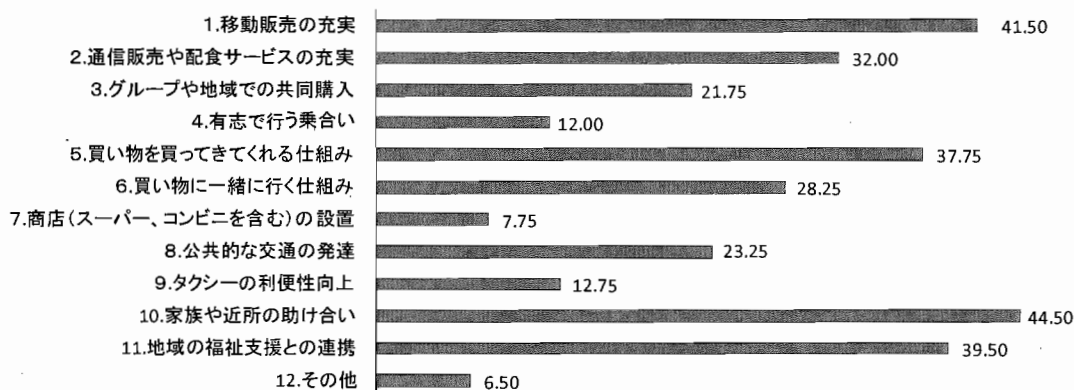
デイサービス施設の利用に不便を感じるか

(4) 今後活用すべき仕組みについて

5年後を見据えて日常の買い物ができるためには、どのような仕組みが必要だと考えるのか意見を聞いたところ、次のような結果となった。

11の選択肢から1位から3位までの3項目を選択してもらい、1位に挙げた項目については1.5を、2位に挙げた項目については1.25を乗じて点数を集計した。

今後活用すべき仕組み



最も点数が多かったのは、「10. 家族や近所の助け合い」で44.5ポイントとなっている。理由としては、「お年寄りの買い物を地域で支えているから」、「一番現実的だから」というコメントが挙げられている。

また、「近所、家族とも付き合いが必要だから当たり前のこと。昔から五人組があり、何事があっても親戚付き合いをしてきた」というように、地域では支えあいを当然のことと考えており、「地域の良さを保つには助け合いが必要」、「今後も続ける」という意見に反映されている。

今後、地域での助け合いを継続していくためには、「昼間は若い人がいない」、「荷物を運ぶのは大変」とあるように若い人の確保が課題となっている。

(「10. 家族や近所の助け合い」との回答へのコメント)

- ・ 地域の良さを保つためには助け合いが必要……7件
- ・ お年寄りの買い物を今も地域で支えている……6件
- ・ 一番現実的だから……3件
- ・ 昔から五人組があり、何事があっても親戚付き合いをしていた……1件
- ・ 昼間は若い人がいない……1件
- ・ 荷物を運ぶのは大変だ……1件 等

次に多かったのが、「1. 移動販売の充実」で41.5ポイントとなっている。理由としては、「現実的」、「近くで買い物ができる」、「高齢者や周囲の人の負担が軽い」、「自分で商品を選べる」という声や「今後の高齢化に向けて必要」というコメントが挙げられて

いる。

一方で「少し割高」なので利用が減っており、「移動販売をなくさないため購入を促進して支える必要がある」というコメントも見られた。

(「1. 移動販売の充実」との回答へのコメント)

- ・ 近くで買い物ができる……7件
- ・ 今後、高齢化が進むにつれて必要になる……5件
- ・ 自分で商品を選べる……2件
- ・ 今後活用すべき仕組みとして最も現実的……2件
- ・ 移動販売をなくさないため購入を促進して支える必要がある……2件
- ・ 高齢者や周囲の人の負担が軽い……1件
- ・ 配達料がかかるため少し高くなる……1件

3番目に多かったのが「11. 地域の福祉支援との連携」で、理由としては、5年後、10年後、地域に住む多くの人が高齢者となる中で、その高齢者を支える若い層がいなくなる場合を考えると、地域福祉サービスとの連携が必要との意見が多くなっている。

連携の方法としては、ホームヘルパーによる家事支援の一環での買い物代行や、デイサービスでの買い物ツアーなど様々な意見が挙がっている。

(「11. 地域の福祉支援との連携」との回答へのコメント)

- ・ 現在、デイサービスで実施している買い物ツアーがよい。ただ、病気になると利用できない点の改善が必要……2件
- ・ みんなが高齢になるので必要……1件
- ・ 今70代の方の5年先、10年先が大変だ……1件
- ・ 足のない人にとっては福祉バスとの連携が必要……1件
- ・ 家に来て家事もしてもらえる……1件

次いでポイントが高かったのが、「5. 買い物を買ってきてくれる仕組み」となっている。理由としては、「出歩くのが難しくなった人の見守り等を兼ねることができるから良い」、「今も頼まれることがある」という意見がある一方で、「生活の中を覗くことになる」と心配する意見や持続するためには「システムやルールを作る必要がある」という意見があった。

(「5. 買い物を買ってきてくれる仕組み」との回答へのコメント)

- ・ 高齢化で外出が困難になるので必要……3件
- ・ 集落でそうした仕組みづくりを考える必要がある……2件
- ・ 出歩くのが難しくなった人の見守り、健康状態の確認も兼ねられる……1件
- ・ 店がないから（小売店を維持できる人口はない）……1件

- ・ 有償で買い物代行をする仕組みをつくと持続するのではないか…… 1 件
- ・ 今も頼まれることがあるので。ただ、生活を覗くのが気になる…… 1 件
- ・ システムやルールを作る必要がある…… 1 件
- ・ 信頼できる人に代行してもらう必要がある…… 1 件 等

5 番目にポイントが高いのが、「2. 通信販売や配食サービスの充実」となっている。主な意見は次のとおりで、特に高齢の一人暮らしの男性の回答が多くなっている。また、利用に当たっては、わかりやすさ、注文しやすさという観点から「紙ベース、電話での注文が必要」との意見があった。

（「2. 通信販売や配食サービスの充実」との回答へのコメント）

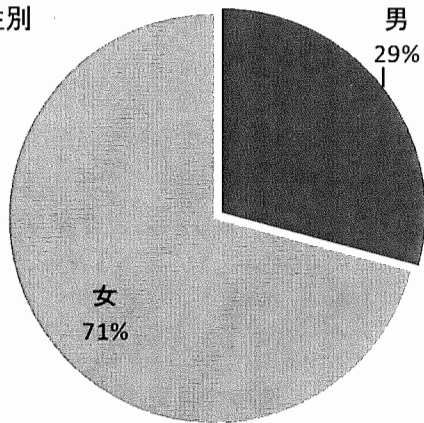
- ・ 家まで配達してくれるので便利…… 2 件
- ・ 栄養の偏りをなくすためにも配食サービスは必要…… 2 件
- ・ ネットでの注文は難しいので、紙ベース、電話での注文が必要…… 2 件
- ・ 近くに店がなく、食材の調達のために必要…… 1 件
- ・ スーパーと連携できればよい…… 1 件
- ・ 動けなくなったらこれしかない…… 1 件
- ・ 配送サービスの充実が必要（船着き場から各戸への配送の改善）…… 1 件

5 集落の住民に対する調査

(1) 住民回答者属性

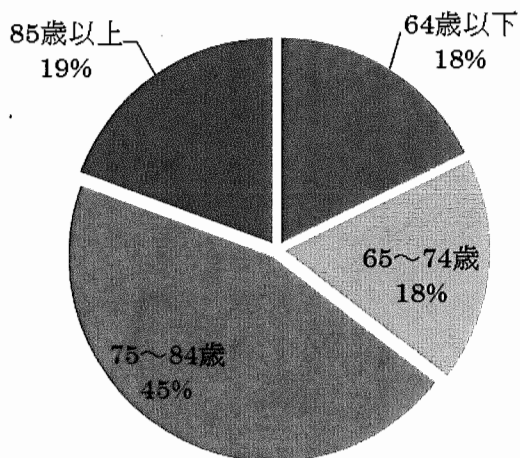
聞き取り調査した集落住民の属性は次のとおりである。

① 性別



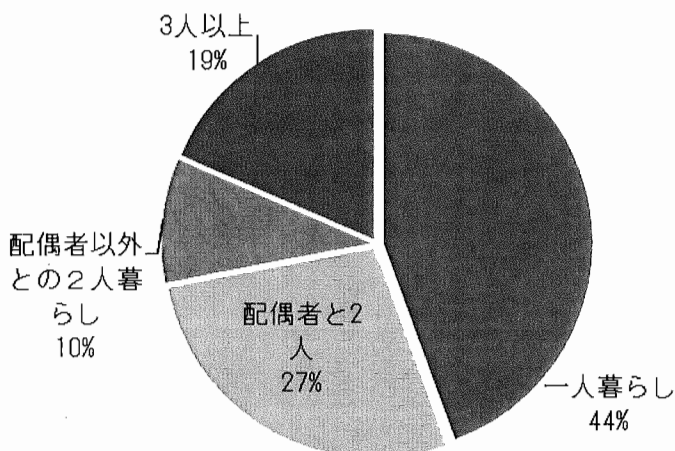
男性50人 女性125人 計175人

② 年齢



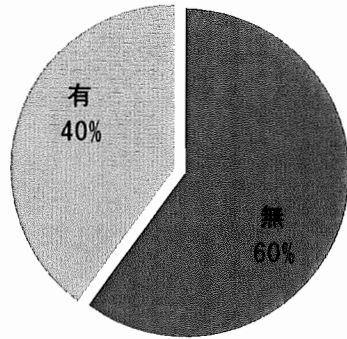
64歳以下	31人 (18%)
65~74歳	31人 (18%)
75~84歳	79人 (45%)
85歳以上	34人 (19%)

③ 家族構成



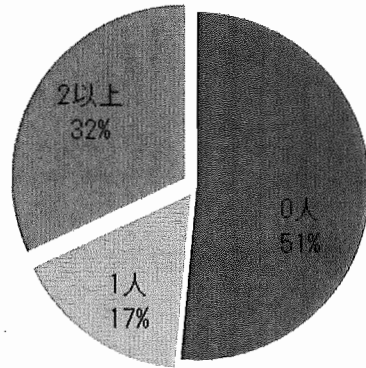
一人暮らしが79人 (44%)
 夫婦2人暮らしが49人 (27%)
 息子や孫等配偶者以外との2人暮らし17人 (10%)
 子世代等との同居3人以上33人 (19%)

④ 運転免許の保有状況（本人・世帯）



回答者本人の運転免許の保有状況については有が70人（40%）、無が105人（60%）だった。

世帯の運転免許保有者



世帯で見た場合の保有状況は、世帯の誰も持っていないが90世帯（51%）、本人も含めて1人が持っているが29世帯（17%）、2人以上が免許を持っているが56世帯（32%）だった。

(2) 買物の現状

自ら出向いて商店で買い物をする場合のほか、商品を積んだ車が近所または家に来る移動販売、生協・農協などの宅配サービスを利用するといった回答のほかにも多様な入手方法を活用している。

例えば、野菜・米は自家生産や近所からもらうという場合も多く、「近所の農家から毎年買っている」という声も聞かれた。同様に、「買ってきてもらう」、「娘が来る時に買ってくる」、「連れて行ってもらう」、「一緒に行く」という回答も多くあった。

また、そのほかに「デイサービスの一環による買い物ツアー」など、様々な方法で買い物をを行っている状況が見られた。

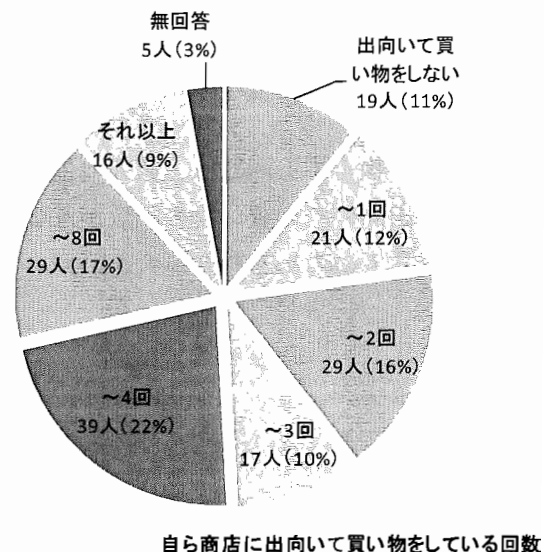
① 自ら商店に出向いて買い物をしている場合

【自ら商店に出向いて買い物をする回数】

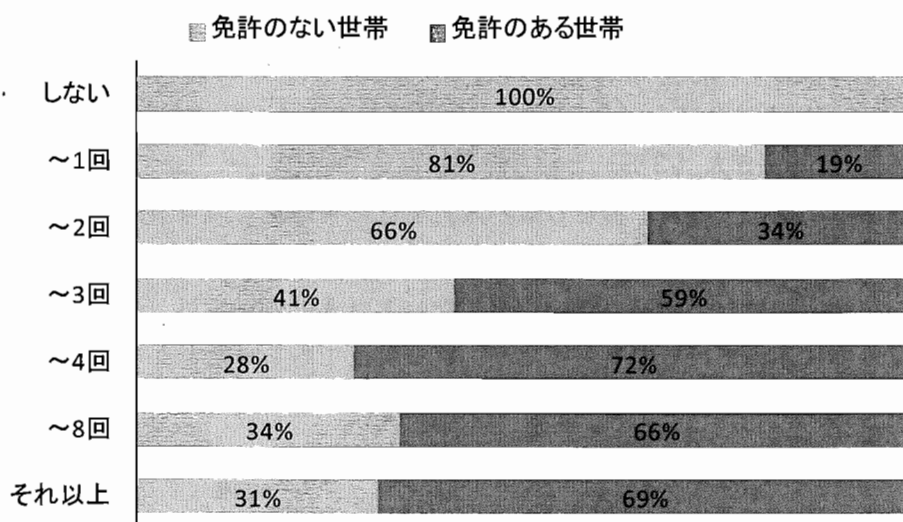
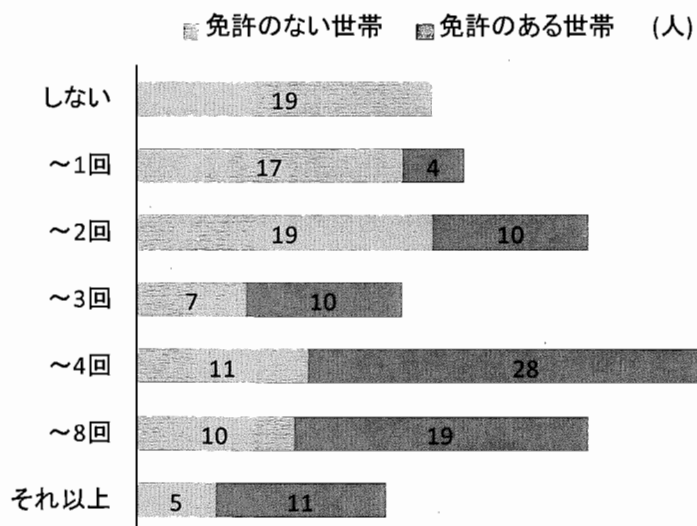
日常の買い物をを行う複数の商店のうち最も頻繁に出向いて買い物をする商店を住民が平均して利用する回数は、月3.5回/人となっている。月当たりの買い物の回数を見ると、自ら商店に出向いての買い物をしない人は19人(11%)、1回買い物をしている人は21人(12%)、2回以下は29人(16%)、3回以下は17人(10%)、4回以下は39人(22%)、8回以下は29人(17%)、それ以上が16人(9%)、無回答5人(3%)という結果になっている。

「商店に出向いての買い物をしない人」を含め半数近く(49%)が商店に出向いての買い物の回数は月3回以下となっている。

なお、商店に自ら出向いて買い物をしない19人については、近所の人や子どもなどに買い物に連れて行ってもらったり、買ってきてもらったりしているほか、生協などの宅配サービスを利用している。



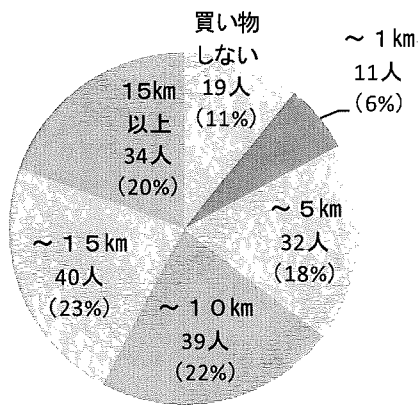
【買い物に出向く回数と世帯内の自動車運転免許の有無との関係】



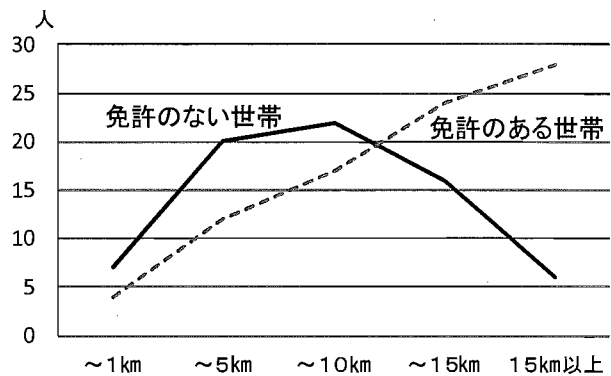
買い物をする回数は、個人の生活の仕方にもよるものであり一概には言えないが、商店に出向いての買い物の回数が月2回以下の場合、自動車運転免許のない世帯に属している人の占める割合が大きい。

【買い物に出向く商店までの距離（最も頻繁に利用する商店までの距離）】

集落の住民が出向く最も近い商店までの平均距離は5.8kmだったが、最も頻繁に出向く商店までの平均距離は1.1kmとなっている。頻繁に利用する商店までの距離を見ると、1kmメートル以内が6%、5km以内が18%、10km以内が22%で、10kmより遠い商店に出向いている住民の割合は43%となっている。



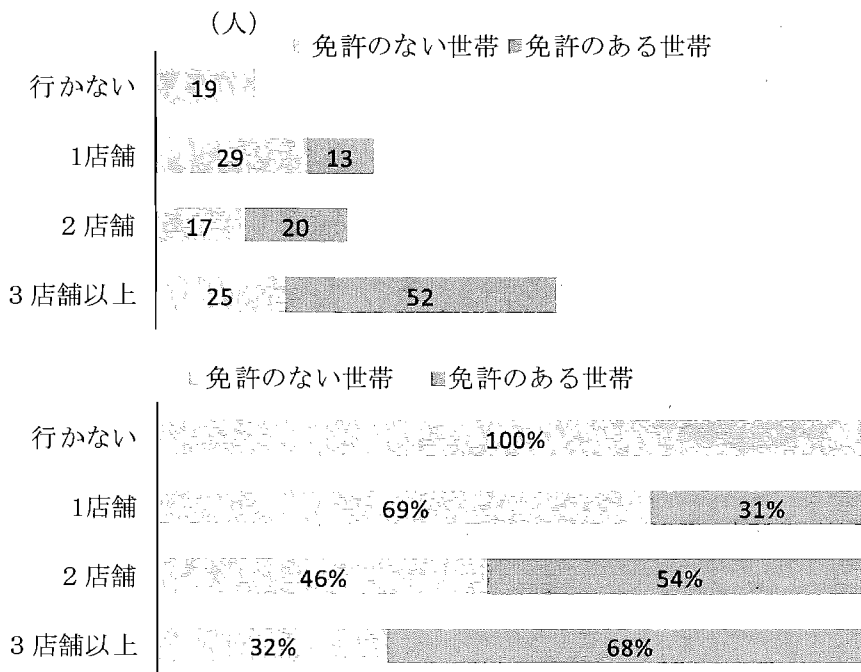
最も頻繁に利用する商店までの距離



距離と世帯免許有無の関連性

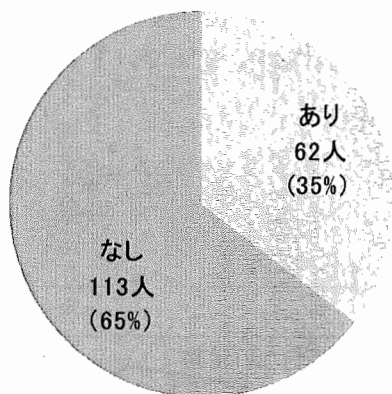
【買い物に出向く商店の数と世帯の自動車運転免許保有状況】

買い物に出向く商店数を世帯の自動車運転免許保有状況別に見たところ、運転免許を保有している世帯に属する人ほど買い物に出向く商店数が増えている。



② 移動販売で買い物をしている場合

移動販売利用の有無



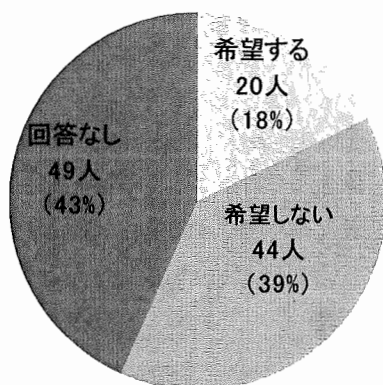
62人（35%）が移動販売を利用しており、113人（65%）が利用していない。

【移動販売への要望】

- ・ 個食パックを小さくしてほしい……3件
- ・ 少しずつでもいいから品揃えを変えてほしい……2件
- ・ いつ来るか時間帯がわからないので決まった時間に来てほしい……2件
- ・ 来てくれるだけでも良い……1件
- ・ 再開してくれたら嬉しいが、無理は言えない……1件
- ・ 仕方ないが、値段が高い……1件

【現在移動販売を利用していない人の移動販売の利用希望の有無】

移動販売利用希望の有無



移動販売を利用していない113人のうち、20人（18%）が移動販売の利用を希望し、44人（39%）が希望しないという結果となった。

(「移動販売がない場合、移動販売を希望しますか。」についての主なコメント)

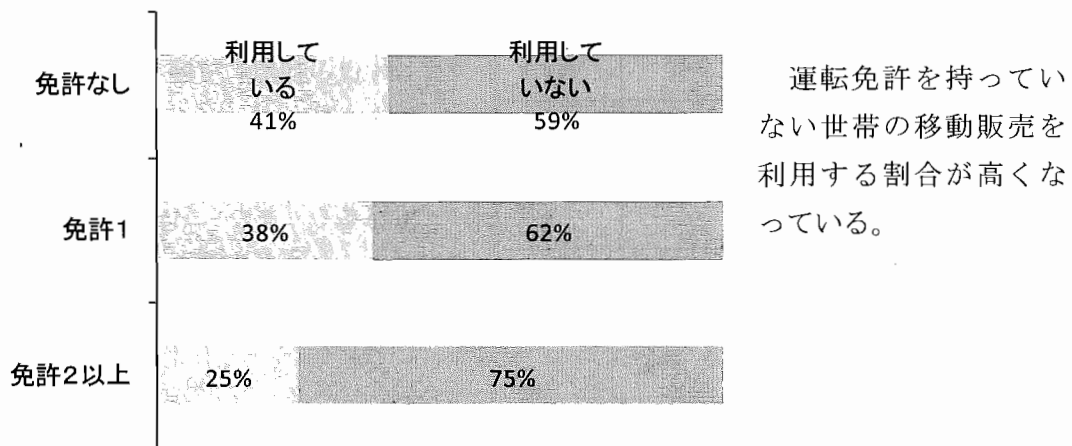
(希望する)

- ・ 食料品・生活用品を買いたい…… 5件
- ・ 現物を見て衣類、食品を買いたい…… 3件
- ・ J Aがやってくると良い。ただし、絶対買うとは約束できないので、お願いするのは気が引ける…… 1件

(希望しない)

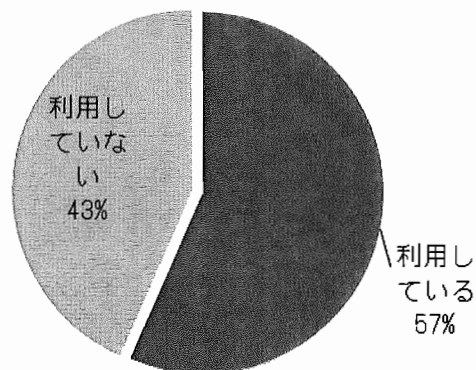
- ・ お店に行った方がたくさんの商品の中から選べる…… 1件
- ・ 留守が多いので利用しづらい…… 1件
- ・ 娘が買ってきてくれるので必要ない…… 1件
- ・ デマンドタクシーで買い物に行けるので必要ない…… 1件

【移動販売の利用と世帯の自動車運転免許取得の有無】



③ 宅配サービスで買い物をしている場合

宅配サービスを利用している住民は99人（57％）で、生協、農協のほか個人商店の宅配サービスを利用している。



主な宅配サービス事業者

事業者名	利用者
生協	51人
農協	39人
ネット販売	7人
テレビ通販	5人
その他個人商店等	32人

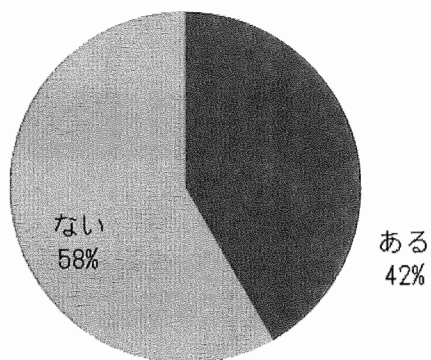
住民が利用している宅配サービスの事業者を見ると、生協（宅配利用者の約5割）と農協（宅配利用者の約4割）の利用が多く、また、スーパー等のネット販売やカタログ販売なども利用している。

【宅配への要望】

- ・ 特にない。慣れた……3件
- ・ 現状でもありがたい……1件
- ・ 家まで持って来てほしい。離島料金が……1件
- ・ 欲しい商品が廃番になった……1件
- ・ 新鮮な魚がほしい……1件
- ・ カタログの字が小さく、お年寄りには読みにくい……1件
- ・ おいしいが、一度に食べきれない……1件
- ・ すぐに届けてほしい……1件
- ・ 店で買うと重くてかさばるので宅配は便利……1件
- ・ 安くしてほしい……1件
- ・ 近くの店では品ぞろえが悪いので、非常に助かっている……1件
- ・ 決まった食材が届くシステムで、自ら内容を選べない……1件
- ・ ケアをよくしてほしい……1件
- ・ 届く日を明確に教えてほしい……1件
- ・ 不在だったら、家の前に置いておいてほしい……1件

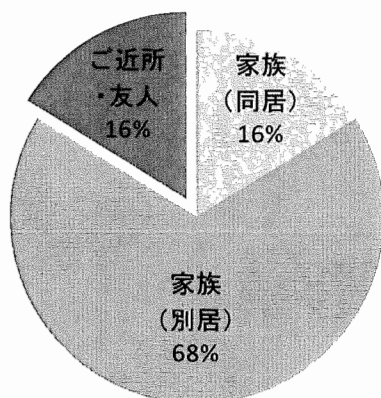
④ 日常の必需品を買ってきてもらっている場合（買い物代行）

買ってきてもらうことが



日常の必需品を買ってきてもらうことがあると答えた人は73人（42%）で、買ってきてもらうことがないと答えた人は102人（58%）となっている。

その場合誰に頼みますか



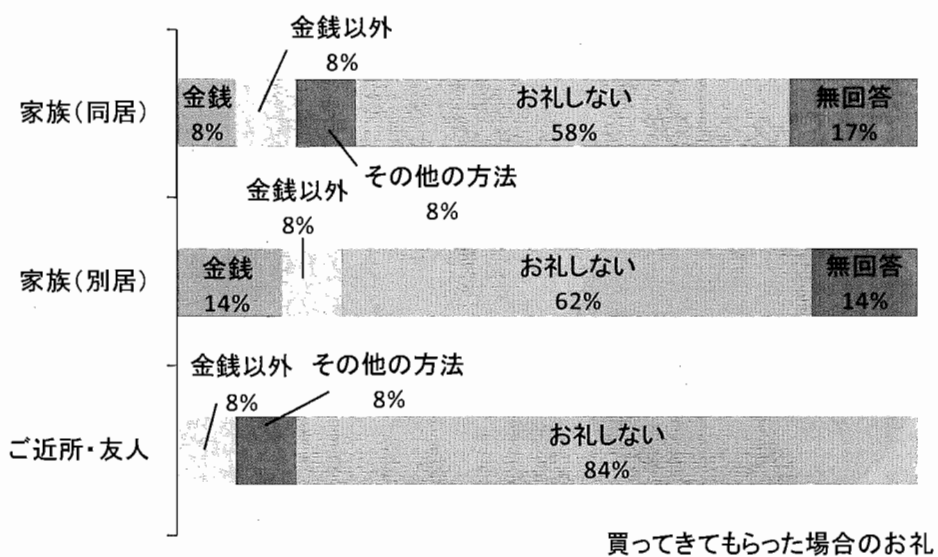
買い物を頼む相手は、別居を含め8割以上が「家族」となっている。

【買ってきてもらった場合のお礼】

買ってきてもらった場合、お礼の内容について聞いたところ次のとおりであった。

単位：人

	金銭	金銭以外	その他の方法	お礼しない	無回答	計
家族（同居）	1	1	1	7	2	12
家族（別居）	7	4		31	7	49
ご近所・友人		1	1	10		12
計	8	6	2	48	9	73

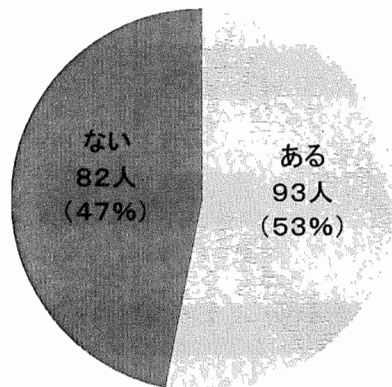


(「必需品を買ってきてもらう」ことについてのコメント) (複数回答あり)

- ・ 金銭でお礼する
 - 1回1,000円……1件
 - 1回10,000円……1件
 - ガソリン代……3件
 - お釣り(端数、1~3割)……4件
 - 盆と正月にまとめてお金でお礼する……1件
- ・ 金銭以外でお礼する
 - 家にあるものをあげる……4件
 - 野菜や米、ビール、洗剤など……3件
 - 買い物を一緒に買ってあげる……1件
- ・ そのほかの方法でお礼する
 - 同居なので電気代金を支払う……1件

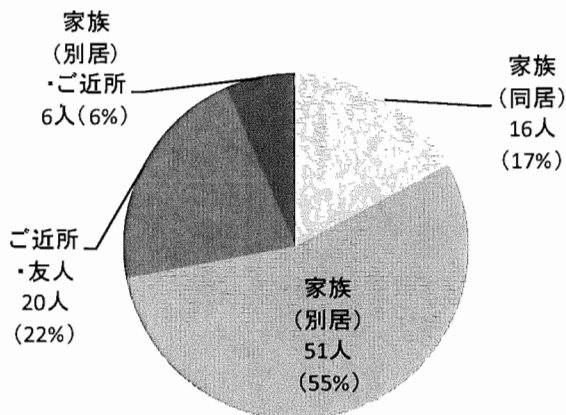
⑤ 買い物に連れて行ってもらっている場合

買い物に連れて行ってもらう・一緒に行くことが



「買い物に連れて行ってもらう」、
「車に同乗して一緒に行くことが
ある」と答えた人は93人（53%）
となっている。

誰に頼みますか・誰と一緒にいきますか



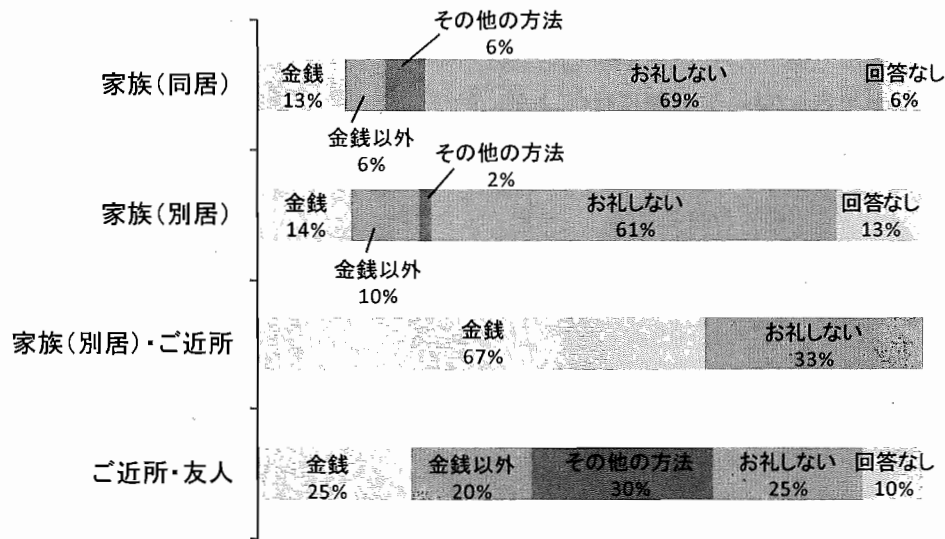
買い物に連れて行ってもらう相手は、家族が67人（72%）で、
次いで「ご近所・友人」が20人
（22%）となっている。

【買い物に連れて行ってもらった場合のお礼】

買い物に連れて行ってもらった場合、お礼の内容について聞いたところ次のとおりであった。

単位:人

	金銭	金銭以外	その他の方法	お礼しない	無回答	計
家族(同居)	2	1	1	11	1	16
家族(別居)	7	5	1	31	7	51
家族(別居)・ご近所	4			2		6
ご近所・友人	5	4	6	5		20
計	18	10	8	49	8	93



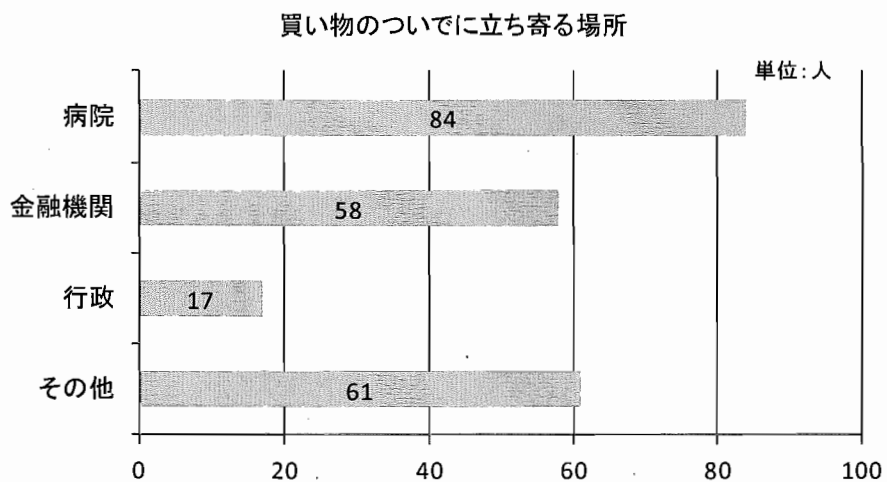
【買い物に連れて行ってもらった場合のお礼】

買い物に連れて行ってもらった場合のお礼の内容について聞いたところ次のとおりであった。(複数回答あり)

- ・ 金銭でお礼する
 - 1回1,000円……3件
 - 1回3,000円……2件
 - 1回5,000円……4件
 - 1回10,000円……2件
 - 1か月10,000円……1件
 - ガソリン代を出す……3件
 - 小遣い程度……2件
- ・ 金銭以外でお礼する
 - 買い物を代わりに購入して渡す・買ったものを分ける……8人
 - 品物(ビール、犬のえさ、バナナ1房程度など)を渡す……4件
 - 野菜をお裾分けする……3件
 - 1,000円程度の物を渡す……1件
 - 3,000円程度の物を渡す(歳暮・中元)……1件
 - 商品券(5,000円)を渡す……1件
 - ビールを渡す……1件
 - 犬のえさなどを購入する……1件
- ・ そのほかの方法でお礼する
 - 一緒に食事をする……7件
 - 手伝いをする……1件
 - 参加費500円を支払う……1件

⑥ 買い物に行ったついでに立ち寄る場所

買い物のついでに立ち寄る場所を聞いたところ、175人のうち、半数以上（84人）が病院に行っており、次いで金融機関が58人、行政が17人、その他が61人という結果になっている。

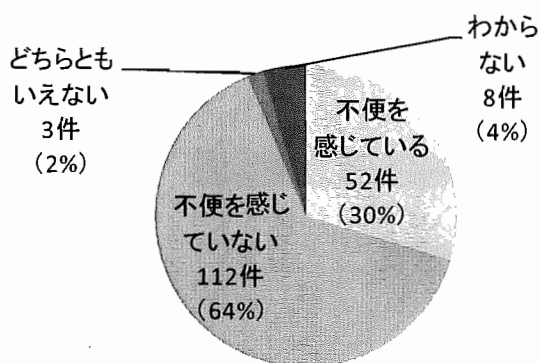


（その他に立ち寄る場所）

その他に立ち寄る場所として、ご近所・友人宅（友人の店）・実家・飲食店・美容院・農作物の出荷などがあげられた。

⑦ 日常の買い物に不便を感じているかどうか

「日常の買い物に不便を感じていますか」という問いに対して、「不便を感じている」との回答が52件(30%)あり、「不便を感じていないと思う」との回答は112件(64%)となっている。



(不便を感じている理由)

- ・ 公共交通が不便……10件
- ・ 車がない、運転できない……10件
(これとは別に自分の運転が今後不安との回答が1件あった)
- ・ 近所に店がない、大きなスーパーが遠い……8件。
- ・ 利用している商店や宅配の品揃え、価格、仕組み(すぐ手に入らない)が不満……8件
- ・ 人に買い物を頼まなくてはいけない……4件
- ・ 将来に不安を感じる……4件
このほか、「頼れる人がいない」、「家族が帰ってこない」、「体の自由が効かない」、「タクシーなので経済的にきつい」、「移動手段に限られる」との回答が見られた。

(不便を感じない理由)

- ・ 自分で車等を運転して買い物できる……29件
- ・ 何とかしている、慣れた……24件
- ・ 子どもが持ってきてくれる、子どもが買い物に連れて行ってくれる……19件
- ・ 夫が車を運転できる、買い物を頼める家族がいる……15件
- ・ 生協や農協など宅配が利用できる……6件
- ・ 現在は不便ではないが、将来に不安を感じる……5件
- ・ 近所の人をサポートしてくれる……4件
- ・ 買い置きができる……3件
- ・ 移動販売が利用できる……3件
- ・ 福祉バスが利用できる……2件
- ・ 友達同士で支え合っている……1件

6 集落調査を終えて

- ・ 今回調査を行った集落では、商店等に出向いての買い物のほか、移動販売や宅配サービスを利用したり、同居以外の家族や近所の人に買い物をして来てもらったり、買い物に連れて行ってもらうなど様々な方法で日常の買い物を行っている。
- ・ 商店等で買い物する場合には、複数の商店で買い物をしているが、それらまでの平均距離は13.6kmで、最も近い商店でも平均で5.8km離れており、車を運転できない住民などを中心に買い物に不便を感じている状況がある。
- ・ 移動販売については、35%の住民が利用しており、商品を見て買いたい等の理由から残りの18%の住民が利用したいと回答しており、半数以上の住民が利用を希望している。
- ・ 家族のほか、近所の人買い物をサポートしている状況がある。「買い物をして来てもらう」、「買い物に連れて行ってもらう」相手としては、家族の割合が高く、近いところでは2~3km離れたところに暮らす子どもが月に1回から4回ほど買い物も兼ねて訪ねるというケースが多いが、中には県外に暮らす子どもが2時間かけて週に1回訪問するという例もあった。
- ・ 調査をする中で、住民から、「自分の目で見たい」、「ツアーのようにみんな買い物に行くのであれば利用する」という意見があったほか、「買い物で近所に迷惑をかけるのは気が引ける」という地域に対する遠慮や「知らない人には買い物を頼みたくない」、「知っている人でないといやだ」、「子どもが来てくれなくなったら施設に入る」という意見があった。

また、集落の代表者からは、「買い物の話があれば世話をしたり連れて行ったりする様子は見ているけれども、こちらから声をかけるのは遠慮している」といった意見があり、「買い物」は、「娯楽の要素」であるとともに、プライベートが透けて見えるものであり、他人に知られたくないものと考えていることが伺える。